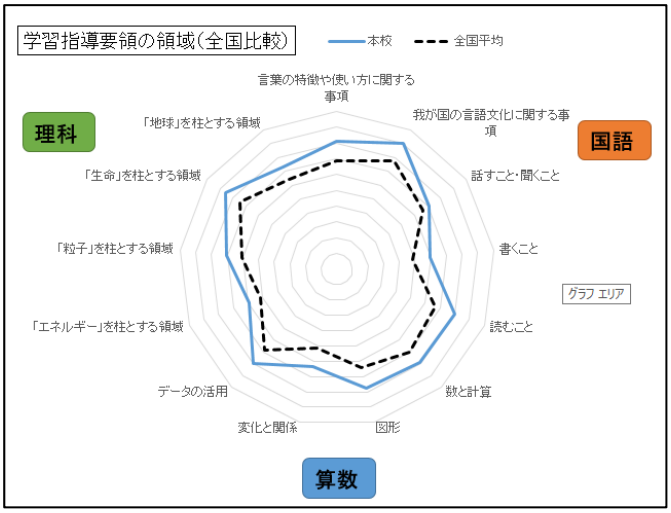
我が校の強み弱み分析・評価シート

『　調査結果による強み・弱み　』

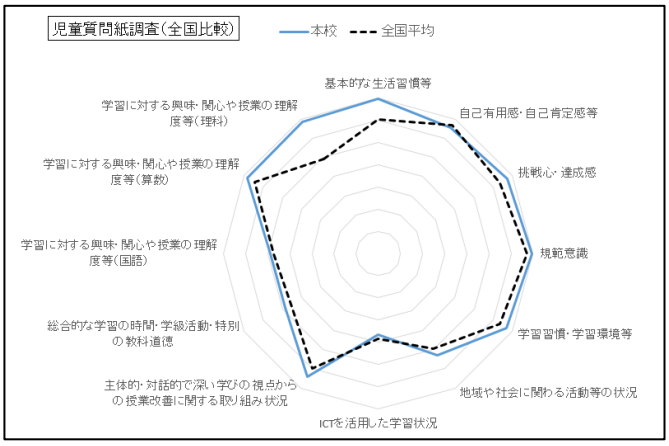
【正答率より】



〇右グラフのように、国語科、算数科、理科とも全調査項目において、全国平均値を上回る正答率でありました。３教科ともに、各問題に対しての正答率が高いだけでなく、無解答率も非常に低く（無解答者が少ない)、粘り強く最後まで解答しようとする姿が見られました。

〇国語科では「話すこと・聞くこと」を除く４領域、算数科では、「図形」「データの活用」、理科では「粒子を柱とする領域」「生命を柱とする領域」で全国平均正答率を１０ポイント以上上回っており、これまでの学習の定着ができている児童が多くいることが分かりました。

【質問紙調査より】



〇学習に関する項目では、理科の学習に関する興味・関心や授業の理解が全国平均を大きく上回る結果でした。

〇生活習慣に関する項目では、肯定的な回答が多く、基本的な生活習慣が身についていることが伺えました。

〇「スマホなどの使い方について、家の人との約束を守っている」という設問では、肯定的回答が高く、全国平均値を１０ポイント以上上回っていることから、規範意識に優れていることが分かりました。

〇学習習慣の項目では、「家で自分で計画を立てて勉強していますか」の設問に対して、肯定的に８割以上の児童が「している」と回答していました。自分で計画を立て学習を進めたり、分からない問題をそのままにせず、自分で調べたり、家族や先生に聞いたりして学習を主体的に進めることができる傾向が見られます。

〇「自分には、良いところがあると思いますか」や、「将来の夢や目標を持っていますか。」の設問において、全国や県に比べ１０ポイント以上肯定的に回答する児童が見られました。また、「読書はすきですか。」「あなたの家にはどれくらいの本がありますか」の設問では、６割近くの児童が「本が好き」「１００冊以上ある」と回答していました。家庭での読書環境における肯定的評価が高いことが分かりました。

〇道徳や学級会等の話し合う活動を問われる項目では、コロナ禍の影響もあり、昨年は若干低い傾向が見られましたが、今年度は改善されていました。道徳の授業での学級やグループでの話し合いは６割以上の児童ができたと実感していました。

●「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めているか」の設問では、全国平均をやや下回りました。

●ICT 機器の１日あたりの使用時間において全国平均をやや下回る結果となりました。

【全国学力・学習状況調査をもとにした重点取組事項】

〇学校教育目標の実現に向けて

自己肯定感の高さや、読書への関心、しっかりとした学習習慣等、児童の強みを最大限に生かしながら教育課程を見直し、学校教育目標である「じっくりと考え、考えたことをもとに行動をおこす青山っ子」の育成を図っていく。

〇授業改善

コロナ感染対策を工夫しながらできるグループでの活動のあり方を模索しつつ、グループでの意見の交流や話し合い活動等を積極的に取り入れ、児童の考えを広げ、学びを深められる授業改善に努める。学習に対する主体的な態度の育成を図る授業の工夫を心掛け、授業と関連した家庭学習の取り組みを大切にする。授業の中で、タブレットを有効に活用できる工夫を模索していく。

〇家庭・地域・学校の連携

コミュニティースクールと連携し、「家庭」「地域」「学校」が一体となった教育活動を図る。